

## 日本赤十字社和歌山医療センター 国際医療救援臨床研修プログラムについて

日本赤十字社（以下、日赤）は病院の運営だけではなく災害救護、血液事業など 9 つの活動を展開しており、国際医療活動もその 1 つです。当センターは全国 5 ヶ所に設置された国際医療支援活動拠点病院の一つであり、これまでも多くの医師を海外派遣しています。

赤十字の国際医療支援活動に参加するには最低 3 年の臨床経験を必須条件としていますが、現実的には専攻医終了レベルの臨床能力は必要になります。また以前は被災地など医療資源の不足した地域でのプライマリ・ケア活動が中心でしたが、近年の支援活動では現地医療者の指導を必要とされる事案も多く、より高い専門性を持った医師が求められています。

当センターは高度救命救急センターを備えた臨床研修指定療機関であり、被災地などで必要とされる救急の技能の習得や、各専門医取得のための研修を行うことが可能です。

### 目標：

日赤の国内、国際医療を支えることの出来る専門性を持った人材を育成します。研修修了時に日赤の国際医療派遣（ERU<sup>1</sup>等）、あるいは国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）や赤十字国際委員会（ICRC）の医療派遣に応えうる要件を満たすことを目標とします。

### 対象者：

- 当院の専攻医研修プログラム参加者
  - 将来、赤十字の国際活動に参加する意志があること。
- \*必須研修への参加要件として英語力（TOEIC 730 以上）が必要です。

### 内容：

専攻医としていずれかの当院の専門医研修プログラムに所属し、専門医取得を目指して頂きますが、所属する各プログラムと並行して国際医療救援臨床プログラムも行って頂きます。具体的にはそれぞれの専門医研修プログラム 3 年、ないし 4 年の期間中に、下記研修 1)、研修 2) の研修を受講頂きます。

研修 1) 日赤本社の国際医療研修体系の中で指定されている必須研修<sup>2</sup>

- ERU 研修 5 日間
- IMPACT 研修<sup>3</sup> 5 日間

---

<sup>1</sup> 緊急救援活動に参加するための研修（Emergency Response Unit）

<sup>2</sup> 別途、事前研修として e-learning の修了が必要

<sup>3</sup> 緊急救援以外の医療支援や開発系活動に参加するための研修（International Mobilization and Preparation for ACTION）

- 安全管理研修 3日間

研修2) 日赤、国際赤十字の提供する専門研修、あるいは日赤以外が提供している短期の海外医療研修

- 日赤主催の専門研修
  - 熱帯医学研修 3日間
  - 災害外傷研修 2日間
  - プロジェクト・サイクル・マネジメント手法研修（計画・立案／モニタリング・評価） 7日間
  - コミュニティヘルス研修 1日間（年に1～2回程度）
- 国際赤十字主催の研修
  - H.E.L.P.研修 2～3週間（Health Emergency in Large Population）
  - その他（各専門分野において上級レベル研修あり）
- 赤十字以外の研修

アジア、アフリカなどで熱帯医学、外傷医学研修など国内/国外の大学や医療機関が提供する短期研修が多数ある。例としては国際下痢症リサーチセンター短期研修（International Centre for Diarrhoeal Disease Research, Bangladesh）5日間 など。

研修1) は日赤の海外派遣の要員登録するために必要とされるため、基本的に参加することとします。

研修2) に関してはそれぞれの専門性を考慮し、所属する専門医研修プログラム責任者と相談の上、参加を決定します。

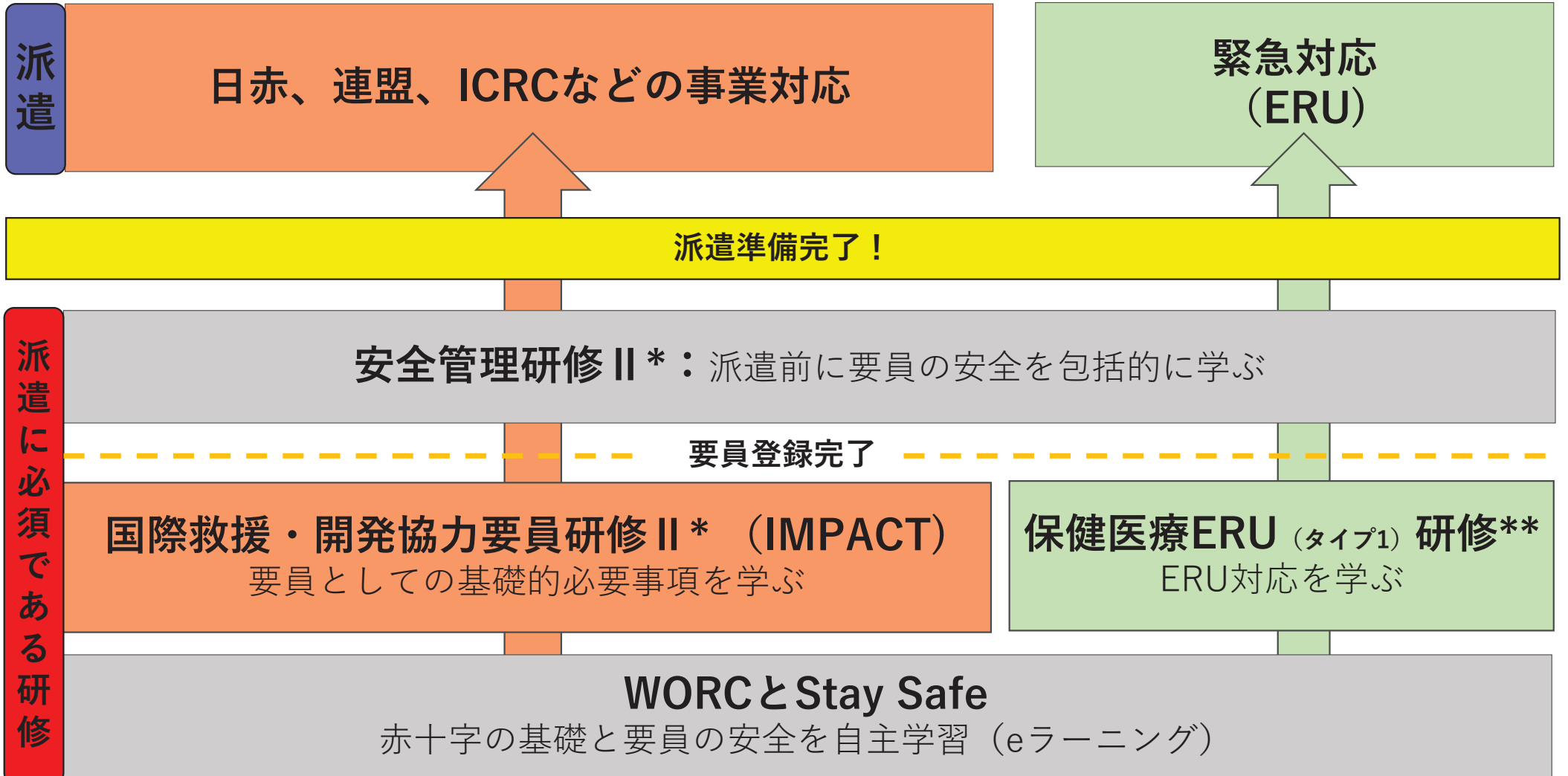
**その他：**

日赤、あるいは国際赤十字主催の研修に関しては出張扱いとなりますので、研修参加者の費用負担はありません。赤十字以外の研修に関しては、その内容に応じて病院がどのようなサポートが出来るか個々に検討します。

研修を修了して派遣要件を満たした場合には、各研修プログラム責任者と相談の上で実際の派遣についても相談することとします。

**お問い合わせ：**

日本赤十字社和歌山医療センター 国際医療救援部／国際感染症事業部



\*安全管理研修及びIMPACT研修は、eラーニングWORCとStay SafeがⅠ、それぞれの座学研修がⅡにあたる。

\*\*2018年度までの「基礎保健ERU研修」から名称を変更